成長に繋がる失敗
―失敗の本質的な意義―

石﨑大智
指導教員　上村浩

研究背景

本研究は、今後の成長において「失敗」という経験が自身にどのように影響を及ぼすのかという観点に着目する。井上（2024）によれば、失敗をすることの恥ずかしさや申し訳なさを感じてしまう若手社員が多く存在し、失敗への恐怖から何事にも挑戦ができていない現状である。そういったなかで、XIMIX　Google Cloud チーム（2025）が指摘する覚悟の表明と自己開示、あるいは非難なき振り返りを行うことで、「失敗を許容する文化」を醸成していく必要があると論じる。

研究目的

本研究は、失敗の経験がその後の成長にどのような影響を与えるのかを明らかにすることを目的とする。成功要素を多く含む体験より、失敗の要素が大きいほど成長を実感できることを検証する。仮説は、失敗体験時の原因の検討は今後の自らの行動を最も変化させる動機となるということである。背景には、SPORTS Rakuten（2023）による成功を掴んだサッカー選手の失敗の実体験によるエピソードがあり、成長を実感するために失敗と常に向き合うことの重要性を示唆している。

研究方法

本研究は、現役の大学生を対象に自身が作成したアンケートを用いて検証を行う。体験した失敗の原因の検討を行い、その失敗から学んだことはあるのかということと、失敗後の行動変化によって成長を実感できたかどうかの相関を検証し、詳細に追求したいところは記述欄を設置して調べる。

分析結果

本分析では、「その失敗の原因について自身で十分に検討したか」という質問項目と、「その失敗から学んだことはあるか」という質問項目の相関を検証した結果、これらには、 $r=0.510$、$t=4.898$、$p<0.001$ という統計的に有意な正の相関があることが示された。また、「失敗の後、行動に変化があったか」という質問項目と、「その失敗によって後に成長を実感したか」という質問項目の相関も検証した結果、これらも同様に $r=0.670$、$t=7.450$、 $p<0.001$ という正の相関があることが示された。

考察・結論

本研究は、たとえ失敗したとしても原因の検討を適切に行うことができれば、今後の行動変化の動機となり、成長を実感できるようになるということを示した。失敗の活かし方に個人の差はあるが、失敗をただの１つの出来事として終わらせるのではなく、失敗を恐れず、果敢に挑戦していく人がどんどん増えていく必要があると考える。